

# 自分の進む道を

## まっすぐに歩いていきます

### —平成23年南丹市成人式—

1月9日、園部公民館で二十歳の門出を祝う成人式を挙行了しました。スーツや羽織袴、晴れ着姿の新成人314人が出席し、小・中学校時代の恩師や多くの来賓が若者の輝かしい前途を祝福しました。



記念品を受け取る秦小百合さん



誓いの言葉を述べる池上慎太郎さん



波多野翔子さんの司会でスムースに進行した式典

今年の成人式対象者は、平成2年4月2日から平成3年4月1日生まれの市内在住者429人（園部224人、八木91人、日吉65人、美山49人）で、市内の小・中学校を卒業した方などで出席を希望される方々も対象となりました。

式典で佐々木市長は新成人に対し、「皆さんは晴れて大人の仲間入りをされました。二十歳になるとさまざまな権利が認められる一方、権利を主張するためには義務があることを自覚し、自らの判断と責任により行動してください」と式辞を述べました。南丹市から贈る記念品は、成人式実行委員が資源を無駄にしない環境に配慮した暮らしが送れるようお願いを込めて選んだ「タンブラー」で、秦小百合さんが代表して壇上で受け取られました。

そして、新成人を代表して池上慎太郎さんが「高校生のころ、人間関係の悩みや、将来の不安から、まわりの多くの方に迷惑と心配を掛けたことがあります。両親の深い愛情に気付き、今はまっすぐに進むことができます。成人になり、これからは社会に貢献できる大人の仲間入りをしていきます」と誓いの言葉を述べられました。

◀友達、恩師と一緒に記念撮影



▶小学校卒業の際、二十歳の自分にあてた手紙を受け取る新成人



また、今回初めて実行委員が式の司会を担当。司会を務めた波多野翔子さんは「最初はなぜ私かという気持ちだったけれど、人生の節目の成人式に、一参加者としてではなく、司会という責任ある役割が果たせてよかった」と感想を話してくださいました。

式典終了後は、記念撮影を行い、希望に満ち溢れた姿を写真に収めました。地域ごとに分かれて行われた懇談会では、久しぶりに会う友人や恩師と近況を報告したり、小学校卒業の際に宝物を詰めたタイムカプセルを開封したり、会場いっぱい笑顔が溢れていました。